

平成二十一年三月九日提出  
質問第一九六号

一九八〇年三月の「毒ウオツカ事件」に関連し現地視察をした当時の警察官僚に関する質問主意書

提出者 鈴木宗男

一九八〇年三月の「毒ウオツカ事件」に関連し現地視察をした当時の警察官僚に関する質問主意書

一 一九八〇年三月、在ソ連日本国大使館（以下、「大使館」という。）の防衛駐在官であった平野滋治氏らが、グルジアの首都トビリシを視察中にレストランで食事した際、毒を盛られたウオツカを飲まされ、めまいや吐き気、背中 of 激しい痛み等、毒物中毒の症状に襲われるという事件（以下、「毒ウオツカ事件」という。）が起きたが、当時政府は「毒ウオツカ事件」の詳細についてどのような調査を行ったか説明されたい。

二 「毒ウオツカ事件」調査のため、当時政府として警察庁等の職員をモスクワに派遣したという事実があるか。

三 現在内閣官房副長官の任に就いている漆間巖氏はかつて一等書記官として「大使館」に赴任していた時期があると承知するが、確認を求める。

四 本年一月三十日、講談社より『ドキュメント秘匿捜査』という著書（以下、「著書」という。）が発行されている。「著書」の七十一頁に、「漆間は赴任後、早速トビリシに行き、『毒ウオツカ事件』の現場

を視察している。スターリンの出生地であるゴリを見て歩いたあと、漆間は事件の舞台となったレストランバーに、客を装って入ったのである。」との記述があるが、右記述は事実を反映しているか。

五 漆間氏が「大使館」に赴任していた際の任務に、「毒ウオツカ事件」の調査は含まれていたか。

六 「著書」の七十二頁に、「店で漆間がひとり食事をしていると、肌も露に踊っていたショーダンサーが接近してきて、『一緒に踊らない？』と誘ってきた。漆間がこの誘いを断ると、今度は周辺にいた男たちが近づいてきて、『さすが日本人だ。あの女の誘いを断るなんて！』と漆間を褒めそやしたという。」との記述があるが、右記述は事実を反映しているか。

七 漆間氏は「著書」に関してこれまで取材を受けているか。

右質問する。